



「こでん」回収試験に取り組んでいる大館市が、国のモデル地域になりました

こでん

小型電子
電気機器

回収試験

使用済みの小型電子・電気機器を回収し、
レアメタル(希少金属)を確保しています

「RtoS」研究会から
依頼を受けて実施

市では、平成18年から、東北
大学の中村崇教授らが中心と
なつて立ち上げた、RtoS研究
会からの依頼を受け、JOGME
EC(独立行政法人石油天然ガ
ス・金属鉱物資源機構)、DO
WAエコシステム株式会社、株
式会社エコリサイクル、株式会
社とく、及び秋田県等と共同
で「こでん」回収(使用済み小型
電子電気機器の回収)試験を続
けています。集められた「こで
ん」からは、工業製品などに欠か
せない希少金属を取り出すこと
ができます。

なぜ大館市で始めたの？

かつて鉱業は大館市の基幹産
業でした。花岡鉱山を始めとし
て、市内には釈迦内鉱山、深沢
鉱山などいくつもの鉱山があり
ました。その鉱山技術をリサイ
クルに応用できること。隣接す
る施設や市の施設で不用物を安
全かつ確実に処理できるシステ
ムが構築されていること。そし

て、鉱山のまちで暮らしてきた
ことで私たちが金属資源への理
解度が高いことがあつて、「こ
でん」回収を大館で始めること
ができたのです。

「こでん」回収試験の
歩み

「こでん」回収試験は、平成
18年に全国に先駆けて大館市が
始めたものです。平成18年12月
から翌年3月までの4カ月間で
4700個、約7tの「こでん」
が集まりました。

内訳を見ると、いとくの店舗
で回収されたものが多く、生活
に密着した身近な場所が効果的
という結果となりました。試験
の結果を受け、平成19年には家
電量販店などにボックスを増や
すと共に、12月には鹿角市、小
坂町、北秋田市、藤里町、能代
市、男鹿市に範囲を広げました。
すると前年の2倍以上の960
0個、約18tの「こでん」を回収
できたのです。
さらに、平成20年10月からは
秋田県全域にまで回収エリアを
拡大しました。

「こでん回収試験」とは？

「こでん」回収試験とは、将来
にわたつてレアメタルを確保す
るため、廃棄物として処理され
ている使用済みの小型電子・電
気機器をどのように回収し、蓄
積していくかという仕組みづく
りを検討していく社会実験です。
また、鉛やヒ素などの管理すべ
き金属の適正処理をすることも
目的のひとつです。

回収する「こでん」は、家電四
品目(ブラウン管テレビ、冷蔵庫
洗濯機、エアコン)以外の機器で
サイズが縦15cm、横25cm以下の
電気や電池で動くものすべて。
回収ボックスは、市役所、総合
支所、公民館や株式会社いとく
各店など市内15カ所、市外7カ
所に置かれています。

集められた「こでん」は花岡地
区にある株式会社エコリサイク
ル(家電リサイクル工場)へ運ば
れます。種類や年代の整理や分
解試験を行った後、レアメタル
を含む部分については保管し、
それ以外の部分については、家
電リサイクルのルートにのせて
リサイクルまたは処理されます。